

令和元年度事業報告

☆一般情勢

約30年続いた「平成」が終わり、新元号「令和」の幕開けとなりました。祝賀ムードも冷めやらぬ中、台風15号19号など各地で記録的な大雨による自然災害が数多く発生しました。しかし日本で開催されたラグビーワールドカップでの日本チームはone team という流行語を残す活躍でありました。

さて平成28年の児童福祉法改正により明記された「子どもが権利の主体であること」や、子どもができる限り家庭に近い環境で養育を受けられるようにする「家庭養育優先原則」の実現にむけて策定した、都道府県社会的養育推進計画が令和2年度より動き出しました。社会的養護施設として、里親等委託の推進、里親家庭の開拓や、支援体制の構築は元より、施設の小規模かつ地域分散化、高機能化に向けて歩みを止めることなく進めていくことが確認されました。

ここに法人及び三施設（地域小規模児童養護施設）の努力目標の達成度について報告致します。

努力目標達成度

1 法人（本部）

- 1 児童の人権擁護に最大級の注意を払うと同時に、困難な実態を直視し、各施設の処遇の充実を図る。
 - ・各施設が課題に対して、前向きに向き合い丁寧に取り組んだ。
- 2 いろいろな行事を通して、法人後援会役員と乳児・幼児・児童・職員との交流を深める。
 - ・平安徳義会創立130周年記念式典及び施設の行事に法人後援会役員が参加し、児童、職員との交流が深まった。
- 3 法人役員及び後援会、職員、児童一丸となって、平安徳義会創立130周年記念事業を実施する。
 - ・平安徳義会創立130周年記念事業として、「岡崎幼児園100周年のあゆみ」発刊、平安徳義会創立130周年記念墓参、平安徳義会創立130周年記念お食事会、平安徳義会創立130周年記念式典を実施した。

2 養護園・ミニトクホーム・善峰ホーム

- 1 子どもの権利擁護の視点を重点的課題とする。
 - ・平成30年度同様に支援向上委員会の定例化を行えた。
 - ・定例の第三者委員会を2回実施した。
 - ・子ども達の意見、要望の徴収について、より気軽に意見を子ども達が出せるよ

うに意見箱を継続設置した。

- 2 職員の資質向上に務める。
 - ・前施設長による、年代別、事例検討会など園内研修の充実を図った。
 - ・会議の活性化にむけて取り組みを行った。
 - ・心理職員やF S Wがブロック会議等への参加を強化した。
- 3 児童養護施設での今日的課題である、地域化、小規模化及び個別化に向けた取り組みを行う。
 - ・開設している4か所の地域小規模児童養護施設「ミニトクホームさくら・もも」「善峰ホーム」「青雲塾ホーム」は順調に運営できた。
 - ・自立支援計画書の焦点化を目標にあげたが、評価欄の改善が課題としてあがり、今後改善を行う。
- 4 職員の人材確保、人材育成の充実をはかる。
 - ・乳児院と合同で行う施設見学会では、多くの参加者があった。
 - ・人材育成に関して、就任前研修等、乳児院と合同で実施出来た。

3 乳児院

「子どもの最善の利益」を保障するため更なる施設の高機能化、多機能化及び小規模化を図るを目標に掲げ、4つの取り組みを行った。

- 1 専門的養育機能の充実
 - ・定員20名、入所児童8名（内8名が被虐待児）、延べ日数5323日、一時保護委託児37名、延べ日数1078日、合計延べ日数は6401日だった。退所児童は8名、内訳として家庭引取3名、養護園移籍4名、他施設移籍1名だった。
 - また、一時保護児童3名が里親委託となった。
 - ・支援の極めて難しい病虚弱児や障がいを持つ児童の相談が増えており、施設の高機能化の課題を再確認した。
- 2 小規模グループケアの充実
 - ・乳児、幼児ホーム合わせて4ユニット体制を組み、担当性を重視した養育を行うことで、著しい子どもの成長発達が観られた。しかし、ユニット体制が進む中でユニット間の職員連携等の課題も見られた。
- 3 早期家庭復帰に保護者支援の充実
 - ・支援の難しい保護者に対して、児童相談所や関係機関と連携し、それぞれのケースに応じた家庭支援を行った。特に家庭引き取りが近いケースには、家族支援ルームにおいて宿泊保育を実施した。

- 4 職員の人材確保、人材育成について
 - ・研修計画に基づき施設内においては特に力を入れ、階層別研修、職員の個別面談を行った。また、外部研修についても現場運営に支障をきさない範囲で行い人材育成に努めた。
 - ・養護園と連携しながら人材確保に取り組んだ。

4 岡崎幼稚園

- 1 ワークライフバランスの取組み
 - ・保育士・調理師の採用もあり職員体制の強化が図れた。
 - ・働き方については、週休2日制に近い体制がとれた。
- 2 保育内容の充実
 - ・保育計画については、計画通りに実施するとともに、評価と課題も不十分であるが、できるようになってきた。
 - ・障がい児保育については、幼児になり課題も多くなったが、保護者との連携を密にし対応した。
 - ・園内研修を続けたことでの成果が出始めた。また保育の中でも自然に生かせるようになった
 - ・クラス独自の保育、独自の行事への取組みができ始めた。
- 3 子育て支援の強化
 - ・あそぼうクラブは予定通り実施できた。
 - ・ネットワーク会議も予定通り実施できたが、連携の仕方等に課題を残した。
 - ・保護者会との連携は図れたが、保護者個々との対応が不十分であった。
- 4 調理室の充実
 - ・クッキング計画は、予定通り実施できた。
 - ・保育士との連携による「食育」の実施には、課題が残った。
- 5 環境の整備
 - ・園舎内外の整備として、2階保育室ベランダ側サッシ取替工事を実施した。
 - ・シロアリが発生したため、駆除を行った。
 - ・各クラスの保育用具の充実を図った。
- 6 地域との連携
 - ・地域に根付いた保育園づくり
地域の行事参加・デイサービスセンター慰問・園内行事への招待は、予定通り実施できた。
- 7 岡崎幼稚園創立100周年事業の実施
 - ・予定通り11月8日に実施できた。